

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 千代ヶ岱小学校

学級数 6

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標 よく考える子……

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

### 1 取組のきっかけ

これまで本校では、算数科を中心に基礎基本の定着，学習意欲の向上をめざして複数の教員による協力体制により，児童の興味関心に応じた指導や習熟の程度に応じた指導を行ってきた。全国学力学習状況調査・学力テスト等では，全国平均と同等または上回っているという結果を得ているが，各学級においては学力差も問題となっている。学期末に行っているTTの反省においても，習熟度に応じた指導を求める声があがっていた。そこで，年度末の学校評価会議で，TTによる習熟度・コース別指導の年間指導計画を作成することを確認した。

### 2 取組の位置付け

TTの効果的な活用方法や本校における習熟度別・コース別指導のあり方等を校内研修に位置付け，教務（研修係）が中心となって，指導の改善充実を図る。

### 3 取組の方法

(1) 年度はじめに，「学校改善プラン」を確認。……函館市の教育を再確認

学力をはぐくむ4つ葉の「基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用」～「わかる授業」を積み重ねる，「望ましい学習態度の育成」～自主的な学びをはぐくむについて重点を置きながら，そのために必要な指導内容や指導方法の改善につとめ，児童一人一人の学力向上に取り組むことを共通理解した。このことにより，この延長線上にある「学びの連続性」についても，様々な局面から迫っていけるものと押さえている。

(2) 校内研修の研究主題を決定

校内研修の研究主題を，「進んで学び合う子の育成～算数科における指導の工夫を通して～」とし，算数科で個に応じた指導を改善するために，TTの効果的な活用について研究することを決定した。

(3) TT研の研究内容還元と年間指導計画作成

TT研の指導案について学習した。また，6年間見通しをもった指導が行えるように，算数科におけるTTの年間指導計画作成の重要性を共通確認し，その手順，実践の仕方について話し合った。

## 取組の成果と課題等

### ○ 取組の成果

- ・算数科におけるT Tの年間指導計画を作成した。  
〈成果〉→・単元の目標，指導計画をふまえ，習熟度別・コース別で授業を行うことで，進めるペースや内容を児童の実態に合わせることができた。その結果，児童個々の学習意欲が高まり，内容の理解が深められるとともに，確実な定着を図ることができた。
- ・校内研修で，T Tの効果的な活用について研究を進めた。  
〈成果〉→・今年度から初めて習熟度別少人数指導に取り組み，児童・教員ともに，その学習方法に慣れてきた。
  - ・日頃の授業で消極的な児童も，少人数の学習で意欲的に学び，進んで発表する姿がみられた。
  - ・複数の教員による指導形態

- ① 同一学級内でのT Tによる児童形態
- ② 同一学級内で一部の時間を習熟度別・コース別で行う指導形態
- ③ 異なる教室で学級を分割させ習熟度別・コース別で行う指導形態

それぞれのよさや特性を生かすための課題が明らかになった。

- ・コース選択については，単元導入時のレディネステストや単元途中の自己評価・授業評価を単元指導計画に位置付けることで，児童が個々に自己理解を深められた。また，担任は，毎時間の児童の学習状況を正確に見取り，算数科における児童理解を深め，思いを認めながら児童の相談にのることで，より適切なコース選択ができるようになった。

### ○ 教育課程検証の方法

- ・年度末 学校評価  
保護者アンケート  
児童アンケート  
教員複数体制による習熟度別・コース別少人数指導について，自己評価及び他者（児童・保護者）評価を実施し，授業改善・指導力向上に向けた成果を明らかにする。
- ・校内研修  
児童の学び方，教員の指導方法に関する研修とチームによる指導案作成，授業の実施・事後の話し合い等により，成果と課題を明らかにする。
- ・教務部会  
計画作り（年間指導計画の改善，日程調整，授業イメージの提案等）と反省会議の実施